



## 令和 7 年度 好事例企業との意見交換

11 月の過重労働解消キャンペーンの一環として、令和 7 年 12 月 11 日（木）に福井労働局長（石川良国）は、福井運輸支局長（大木康夫）とともに「物流の 2024 年問題」に積極的に取り組む企業を訪問しました。

### ○事業場訪問の概要

#### 1 訪問日時

令和 7 年 12 月 11 日（木）14:00～15:30

#### 2 企業概要

##### 【荷主会社】

- (1) 名 称 アイシン福井株式会社
- (2) 所在地 福井県越前市池ノ上町 3 8
- (3) 代表者 取締役社長 立松 敬朗
- (4) 労働者数 2,912 名 2025 年 3 月末現在
- (5) 業務内容



オートマチックトランスミッション（AT）部品など主に自動車の駆動系部品の開発、製造及び販売を行う事業者で、次世代電動化製品を開発なども行っている。

拠点としては、本社及び本社工場のほか越前市内に白崎工場、池ノ上工場を有し、また、グループ会社が県内に 2 社ある。

##### 【運送会社（貨物自動車運送事業者）】

- (1) 名 称 株式会社サンエツ運輸
- (2) 所在地（本 社） 富山県下新川郡入善町上飯野 1230 番地の 1  
（福井営業所） 福井県越前市池ノ上町 91 字西山田 11 番地 1
- (3) 代表者 取締役社長 山下 隆志  
福井営業所 理事 西川 明宏
- (4) 労働者数 全 体 214 人 2025 年 3 月末現在  
福井営業所 36 人 2025 年 3 月末現在
- (5) 業務内容



北陸地域のアイシングループ各社の積み荷を、中・長距離運送を行う道路貨物運送事業者で、本社ほか福井県、富山県に、それぞれ 1 か所の営業所を有し、各営業所敷地内及び愛知県内に物流センターを設置している。

福井営業所は中京方面へ輸送する中距離運送を行う道路貨物運送業を行い、トラック 24 台を有し、ハイブリッドトラック導入も行っている。

## ○課題及び取組

### 1 道路貨物運送業における労働時間削減の課題(物流の 2024 年問題)

令和6(2024)年4月1日からの自動車運転者に対する労働時間上限規制及び改正された「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」への適用により、これまで以上にドライバーの人員確保を行う必要があるが、県内の「自動車運転の職業」の有効求人倍率は概ね 3.1 倍～3.7 倍で推移し、高止まりの状況にあり、必要な運転手の確保が困難になっている。

また、ドライバーの労働時間削減のためには、荷役作業時間の短縮が一つの大きな柱となるが、荷待ち時間も含めた荷役作業の短縮は、荷主との取引慣行の問題など、個々の事業者の努力だけでは解決できない課題もある。

### 2 トラックドライバーの拘束時間削減のための取組内容

#### (1) 荷主会社(株式会社アイシン福井)

##### ア 1 台当たりの積み荷の最大化

荷主において、パレットごとの正確な重量を測定してから運送会社に引き渡し、運送会社の運転手が、その重量が登録されている伝票を読み込みながらトラックに積み込むことで、過積載を防止するとともに、トラックの最大積載量(重量)のほぼ 100%を積み込むことができるようにした。

これまでは、荷の重量を測定していなかったため、過積載を懸念し、最大積載量(重量)の 90%程度の積み込みとなっていた。



荷主会社の取組状況の説明を受ける労働局長(同右側奥からから2人目)及び運輸支局長(同3人目)

##### イ 運転者の動態管理で適切な運行時間の再設定を荷主側で実施

運送会社の運転手に荷主支給のスマートフォンを携帯してもらい、各運行路線において、計画上の運行時間が不足している路線や逆に待機時間が生じている路線を把握して、路線ごとに適切な運行時間の再設定を荷主が行った。

##### ウ 軒先渡し・軒先積み荷を荷主側で実施(別添図参照)

荷主会社が、トラックが停車するそれぞれのトラックレーンの後ろに、積み込む荷をパレット上に置いて、運送会社に引き渡すことで、運送会社の荷役作業時間の軽減を図った。

##### エ 安全・作業確認カメラの導入(別添図参照)

荷役作業の安全確認と積み込んだ荷の状態確認のために、荷主会社の労働者がトラックレーン近くで確認作業をしていたが、歩車(フォークリフト)分離のために、確認カメラを設置して、荷役作業場(トラックピット)内のモニター設置場所で確認するように切り替え、荷役作業の効率化・安全化を図った。

#### (2) 運送会社(株式会社サンエツ運輸 福井営業所)

##### ア 1 台当たりの積み荷の最大化の効果

荷主会社の取組により、過積載を防止するとともに、最大積載量(重量)のほぼ 100%を積み込めるようになったため、1 日当たりの必要な車両が約 1 割(荷主



会社からの発注を受ける他の運送会社も含めた全体量)減るとともに、車両に載りきらずに、特車(緊急対応のための計画外の車両)対応が減る効果もあった。

#### イ 運転者の動態管理で適切な運行時間の再設定の効果

荷主会社の取組により、荷主から指定されている到着時刻に遅れがちであった運行路線について見直しが行われ、計画運行時間との乖離が減る効果があった。

正確な計画運行時間が把握されたことにより、運行時間が長い路線と短い路線を組み合わせることで配車することにより、特定の運転者に長い路線が集中するなどがなくなり、各運転者間の労働時間の平準化が図られた。



取組状況について意見交換する労働局長(写真奥左側から1人目)及び運輸支局長(同2人目)と運送会社 西川理事(同手前左側から3人目)

#### ウ 軒先渡し・軒先積みと安全・作業確認カメラの導入の効果

元々パレットに載せた状態での荷の引き渡しであったが、荷主会社の取組により、運転手の荷役作業時間は更に1割短縮された。

さらに、荷役作業員間の動線が交差することもなくなり、かつ、荷主会社の確認者との接触のリスクがなくなり、より安全かつ効率的にフォークリフトでの荷役作業が行える効果もあった。



荷の正確な重量を読み取る端末と読み取った重量により積載可能な最大量の荷の積み込みを監理しているパソコンの説明を荷主会社牧野 GM(写真右から1人目)から受ける労働局長(同2人目)と運輸支局長(同3人目)



トラックピットで牧野 GM(写真右から1人目)からモニターで確認している状況の説明を受ける労働局長(同2人目)及び運輸支局長(同奥3人目)



トラックレーンに荷を軒先渡ししている状況と荷役作業員以外が立ち入らない歩車分離を確認する労働局長(写真右から2人目)と運輸支局長(同1人目)



トラックピットで荷主会社の坪田室長(写真左から1人目)、運送会社の西川理事(同5人目)と意見交換する労働局長(同4人目)、運輸支局長(同2人目)

### 3 取組結果

荷主会社が行う「1台当たりの積み荷の最大化」「運転者の動態管理で適切な運行時間の再設定」「軒先おろし・軒先積みの徹底」「安全・作業確認カメラの導入」などにより、運送会社の積み込み作業時間が1割削減され、

時間外・休日労働の月70時間超え 令和元（2019）年（働き方改革元年） 16%

月70時間超え 令和6（2024）年（時間外上限規制開始）6%  
まで減少した（月70時間は社内で決めた上限時間）。

また、荷主会社も、自社の働き方改革を進め、働き方改革前の平成27～30（2015～2018）年には平均時間外労働時間が40時間を超えていたが、コロナ禍後の現在でも、20～30時間であり、大幅な減少を維持している。

加えて、荷役作業場の安全化が図られ、運行時間の再設定により安全運行も徹底され、運送会社は、平成27年11月16日以来の無災害を継続しており、無災害日数は既に3,000日を超えている。

#### ○ 好事例企業訪問を終えて（石川良国 福井労働局長）

労働基準法の上限規制適用などによる「物流の2024年問題」に対して、荷主会社側が積極的に対策を講じ、運送会社もそれに合わせて改善を進めたことにより、労働時間を削減している事例として、訪問させていただきました。

「軒先渡し・軒先積みの徹底」や「1台当たりの積み荷の最大化」などの対策について、運送会社からの要望に応じて荷主会社が対応したものだと思います、質問したところ、荷主会社の提案から始まったと説明がありました。このため、意見交換の中で、荷主会社として運送会社に積極的に協力している理由を聞いた際、「社内でもいろいろな意見はありましたが、上限規制が予定されているということで、納得してもらい進めることができました。」との荷主会社としての積極性を感じました。

運送会社からは、荷主会社の協力を有効に活用して、各運転者間の労働時間の平準化を進めていたほか、「フォークリフトでの荷役作業ではどうしても死角があるので、周りに他の労働者がいないのは本当に作業がしやすい。安全を最優先して、荷主と運送業者がwin-winとなれるように努めています。」との発言が印象に残りました。

また、「1台当たりの積み荷の最大化」では、伝票を読み込むという作業が新たに発生して、その点では荷役作業の増加となったのですが、荷1つ1つの伝票ではなく、一つのパレットに載せた荷の伝票はグループ化して、どの伝票でも1つだけ読み込めば、そのパレット全体の荷として認識するよう工夫し、運転者の意見も聞きながら作業量が増えるのを最小限度としたことも、荷主会社と運送会社の協力がうまく繋がっていると感じました。

荷主会社と運送会社が協力した成功例として成果を伺いましたが、労働時間の短縮や荷役作業の効率化だけでなく、安全対策としても大きく向上しているという優れた点も確認できました。

今後、この事例を参考に、県内の荷主会社と運送会社がともに協力をいただければと思います。

軒先渡し（積み）と歩車（フォークリフト）分離による荷役作業の時間短縮と安全化の取組

